児童発達支援センター 仙台市サンホーム 支援プログラム

作成日 令和7年3月14日

法人理念	”あったらいいなのサービス作り”から”共にささえる人の輪作り”にむけて		
支援方針	サンホームでは、乳幼児期から成人期までのトータルサポートの視点をもって、お子さんと保護者の皆様お一人おひとりに寄り添いながら、「子どもの発達支援」「家族支援」「地域支援」を3つの柱として支援をおこないます。		
支援目標	サンホームでは、さまざまな活動をとおして、子どもたちの発達を保護者の方と一緒に確認しながら、幼児期に大切な「こころ」と「からだ」の成長を促すとともに、自己肯定感を育て、いきいきとその子らしく過ごせるようになることを目指しています。		
施設 開設時間	8:30～17:30（土日祝日、年末年始・休園）	送迎	自車がない家庭にはバス送迎があります

プログラム	支援内容（5領域）
登園・朝の用意	・靴や靴下を脱ぐ、上着を脱ぐ、手を洗うなどを大人と一緒に行いながら、手指やからだの使い方などを確認し、自分で取り組みたくなる工夫を一緒に考えていきます。
自由あそび	・からだや指先を使うあそびや、人との関わりを育むあそびなどを準備しています。 【からだを使ったあそび】…自分のからだをコントロールしながら動かすあそびは「自分の思った通りに自分のからだを動かす力」に繋がります。 【物の操作を楽しむあそび】…「手元を見ながら手をコントロールして使う力」を育みます。 ☆自分の思った通りにからだを動かせる力、自分の手をコントロールしながら使う力はあそびや生活動作と関連が深く、達成感や自己肯定感の土台になります。 ☆1日を通して「人とあそぶことの楽しい」という気持ちを育むことを大切にしています。「人を信頼する力」は「生きていく力の土台」になります。
かたづけ	お子さんのあそびきった満足感や納得して片付ける姿を大切にしています。
水分補給	コップやスプーンで水分を摂る機会を作っています。お子さんの発達段階に合わせて、コップの種類やサポートの仕方を調整していきます。
朝のあつまり	今日はどんな活動をするのかな、と期待をふくらませ、楽しい音楽に合わせて思わず見たくなるようなしかけになっているもの（大型絵本、パネルシアター、ペープサートなど）を色々と楽しんでいます。また、自分の名前が呼ばれることへの期待感やお友だちの存在に気づくことなどを大切にしています。「ひと、ものをしっかり見る力」「しっかり聴く力」はあそびに対する期待や意欲が高まり、色々なあそびの広がりに繋がります。
設定あそび	色々な遊具や教材を使ってあそびます。からだを動かす、見る、触わる、作る、聞く、など、様々な活動をクラス毎に行います。苦手と感じるような活動にも、少しずつチャレンジしながら色々な経験を広げられるよう、関わり方を一緒に考えています。 《ふれあいあそび、感触あそび、絵の具あそび、製作、リズムあそび、運動あそび、ルールのあるあそび、など》
昼食	お弁当をみんなで食べます。お子さんのお口の使い方、お口の発達段階はどのくらいか、観察しながら、食べられる量、食べやすい食形態、使いやすい食器や食具、食べやすい環境などを一緒に考えていきます。
帰りのあつまり 帰りの用意・降園	☆サンホームの1日を通して、毎日必ずあること（生活）、シンプルでわかりやすいこと（あそび）を丁寧に繰り返し、時間の区切りや次の活動の見通しを伝えながら、生活のリズムを整えていきます。

家族支援	家庭訪問、個別面談、クラス懇談会、保護者勉強会、家族参観、預かり保育など
移行支援	次の進路先への見学同行と事前訪問、次の進路先の支援者の療育見学受け入れ、引継ぎ、 卒園児フォロー（訪問、面談、勉強会）
地域支援・地域連携	交流保育、療育の見学受け入れ、支援者・地域の保護者向けの勉強会、子育て支援機関との共催行事等
職員の質の向上	令和6年度の取り組み：ティーチ研修、アセスメントの研修、喀痰吸引研修、摂食についての研修、 合理的配慮についての研修、全国児童発達支援協議会・全国職員研修会、人材育成研修会など
主な行事等	家族参観、懇談会、預かり保育、夏まつり、遠足、お楽しみ会、卒園の会など